特集

東通村インターンシップの歩み

東通村って、どんなところだろう。
東通村には、どんな魅力があるのだろう。
東通村に住む人は、自分の村・地域をどう思っているのだろうか。
そんなことを考えたとき、インターンシップ企画【ヒト図鑑】が誕生しました。
なぜ、インターンシップなのに、このようなことをするのか。
本来、インターンシップとは、就職に直結する取り組みではないのか？
そういった疑問もあると思います。
しかし、東通村のインターンシップはそうではありません。
村が抱える課題や問題点を取り上げ、村だけでは実現できないことをミッションとして掲げ、学生と共に取り組み、一緒に成長するインターンシップを実施しています。
そんなインターンシップについての特集をお送りします。



東通村がこれまで行ってきたインターンシップ

東通村では、令和４年度から県内外の大学生等の若者を積極的に受け入れ、夏の長期休暇等を利用した、約１ヵ月間のインターンシップを実施しており、今年で５年目となりました。

・ 令和４～５年度の２ヵ年は「漁業の活性化」をテーマに、ＳＮＳを活用した情報発信を実施。
・ 令和６年度は、当時、東通村地域おこし協力隊だった桑原 杏奈さんが手掛ける「ゲストハウスはれのち」を住民が集う場として知ってもらう機会創出のため、イベントを企画・実施。
・ 令和７年度は計２回のインターンシップを実施。

夏は「東通村の各地区を紹介しているものがない。村の良さを村民だけじゃなく村外の人にも分かるモノがあったらどうか」という考えから「人」に着目して地区を紹介する図鑑の作成に挑みました。

冬は、東通村地域おこし協力隊修了者の亀尾 喬さんが、村の漁業の発展を夢見る若者たちと立ち上げた「合同会社 JAPPA」を多くの人に知ってもらうため、ＰＲ動画等を作成しました。

そして、令和８年の夏、昨年の作品を超えると意気込み、２人の学生が約１ヵ月のインターンシップで挑戦しました。

令和８年夏インターンシップ生紹介

布施（ふせ） 天歌（てんか）さん
青森大学むつキャンパス３年
好きな言葉：脚下照顧（きゃっかしょうこ）
意味：自分の足元を照らして見つめ、自分の行いや現在地をよく反省する　という意味がある

酒井（さかい） 花（はな）さん
北海道大学３年
好きな言葉：責任は想像力の中から始まる



畑中村長から委嘱状を受け取る布施さん(左)と酒井さん(右)